

匠・明治の気骨

- 令和2年12月10日(木) 開場13:30 開演14:00
- 能楽堂ホール「tenjin9 (テンジンナイン)」
(RSKイノベティブ・メディアセンター / 岡山市北区天神町)
- **入場料 1,000円** (資料代含む)



時代に合わせ、敷物や織機の改良を重ねていた磯崎眠亀^{みんき}。ウィーン万国博に出品されたセイロン(現スリランカ)産の[竜鬚蕙]^{りゅうびんえん}のような精巧緻密な花蕙を頼まれたのを機に、家の全資産を投じて研究に没頭。新たな織機を開発し、画期的な染色方法をも考案。1878(明治11)年、複雑でカラフルな模様を自由に表現できる製織技術を手にする。世界に冠たる花蕙[錦莞蕙]^{きんかんえん}の誕生である。錦莞蕙は日本の花蕙業を海外に通用する重要輸出産業へと成長させた。

相次ぐ戦争で造船の必要性を痛感した川村貞次郎。

川村貞次郎



海正丸進水式 (1917年12月)
(三井E&Sホールディングス蔵)

1917(大正6)年5月、三井物産本社の承認を待てず、玉野・宇野に造船所を建設。半年後、岡山県初の貨物船「海生丸」(7

58総トン)を進水させた。その後順調に受注を重ね、2年後の閉鎖(玉工場へ統合)までに26隻を建造。後に三井造船に発展していくのだが、この造船所は川村のスピード、イニシアチブ、剛腕ぶりから川村造船所といわれた。川村は三井に海運事業をもたらしたばかりでなく、海事仲裁を行う海運事業所や船員養成所なども設立。[海運日本]の礎を築いた。



磯崎眠亀

錦莞蕙 牡丹唐獅子紋 (岡山県立博物館蔵)

募集人員 **50人**

(応募者多数の場合は抽選とさせていただきます)

※但し、新型コロナウイルスの感染状況によって人数は前後する可能性があります。

▶シンポジウム及び入場時に感染防止対応を実施させていただきます。(一例)

*来場者のマスクの義務化(各自ご持参ください)

*37.5度以上の熱のある方、喉などに違和感のある方は入館を禁止(同居家族を含む)

*2週間以内の海外渡航歴及び風邪などの発熱や味覚障害等の症状があった方の入館を禁止(同居家族を含む)

*入場時に体温チェック・アルコール消毒の実施及び問診票の記入をお願いします。

▶上記の禁止事項や運営スタッフの指示に従わない場合、入場をお断りします。

▶その他詳しくは、参加可否通知書に記載します。

Fax申し込みはこの用紙のままお申し込みください。ハガキ、e-mailでも受け付けます。令和2年11月20日(金) 必着

お名前(企業・団体名)

〒

ご住所

ご連絡先(電話など)

◆申し込みは1枚(1回)につき1人としてします。(複数応募不可)

fax **086-225-5046**

◆e-mail nichiran@rsk.co.jp

◆ハガキ宛先
〒700-8580

RSK山陽放送内(公財)山陽放送学術文化・スポーツ振興財団

◆ハガキ、e-mailの時は、参加希望の開催日又はタイトルを必ずご記入ください。

◆「参加可否」は郵便でお知らせします。



「精巧緻密の花筵 [錦莞筵]の誕生」

岡山商科大学
非常勤講師

吉原 睦
(よしはら むつむ)

きんかんえん
専門は日本民俗学(民具論・民俗文化財論)。特に庶民性を根底に有する地域の特色(花筵・景観等)に注目し、文化史的視点も含めつつ、変容の状況や特性を研究している。
1997年成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程前期を修了。2009年より現職。修士(文学)
著書に『磯崎眠亀と錦莞筵』、『絵図で歩く倉敷のまち』など。



錦莞筵 牡丹唐獅子紋 岡山県立博物館蔵



「三井造船の誕生 ~川村貞次郎と川村造船所~」

高千穂大学教授

大島 久幸
(おおしま ひさゆき)

専門は日本経営史、商社史、海運史。特に接収資料などを用いて、戦前期の商社や海運業を研究している。
1997年専修大学経営学研究科博士後期課程修了。2000年高千穂商科大学専任講師。2010年より現職。博士(経営学)。
著書に『川村貞次郎と三井物産船舶部』、『両大戦期における海運市場の変容と三井物産輸送業務』など。共著に『総合商社の歴史』など。



三井造船 玉工場 (公財)三井文庫蔵

次回は

シンポジウム 近代岡山の偉人伝 殖産に挑んだ人々 ④

時代を紡いだ先哲

令和2年2月18日(木)
能楽堂ホール「tenjin9」
ナイン



渾大防 益三郎
(公財)竜王会館蔵

綿紡績業が日本の近代産業の中心的役割を担ってきた。明治政府は1878年、イギリスからミュール精紡機を購入し官営工場と民間に払い下げた。児島郡下村(現倉敷市児島)の渾大防益三郎は1880(明治13)年、その精紡機を買い入れ「十基紡」に名乗りをあげた。日本初の民間紡績所・下村紡績所の誕生である。その8年後、倉敷村(現倉敷市)の大地主大原孝四郎が最新の高性能のリング精紡機を導入して倉敷紡績所を創設。倉敷紡績、クラレの礎を創ることになる。



大原 孝四郎
(公財)有隣会蔵

渾大防は家業の製塩業から紡績、金融、製錬などに取り組んだほか、児島養貝社を興し、瀬戸内海での養殖業の先覚者となった。孝四郎から孫三郎、總一郎と三代にわたって倉敷紡績の社長を務めた大原家は、農業、医療、文化、芸術などの振興にも大きな功績を残した。

シンポジウムでは、3人の研究者が紡績業の起業と発展、また倉敷がなぜ、次世代の産業の起点となったのか、渾大防と大原がどんな舵取りをしたのかを解き明かす。



下村紡績 (倉敷市蔵)



倉敷紡績 旧倉敷工場 (倉敷紡績蔵)

リサーチレポート

「始まりは一輪の綿花 紡績の起業と発展」

産業遺産学会顧問
倉敷市歴史資料整備室長
就実大学非常勤講師

玉川 寛治
山本 太郎
小西 伸彦

絶賛発売中!

お求めは、お近くの書店で!!



「岡山蘭学の群像 1・2・3」

定価 1・2 本体 1400円+税
3 本体 1600円+税



「慈愛と福祉 岡山の先駆者たち 1・2」

定価 本体 各1600円+税